

居場所でのコミュニケーション(対話)を拓く!! 第2回子ども・若者の居場所づくりフォーラム開催

「子ども・青少年の居場所づくり支援及び普及推進事業」(県委託)の一環として、2月6日、第2回子ども・若者の居場所づくりフォーラムを開催。「対話」をテーマに、居場所のあり方を考えました。

基調講演は、慶應義塾大学特任准教授、NEET株式会社の発起人・代表取締役会長、鯖江市役所JK課のプロデューサーなど、幅広く活動している若新雄純さん。

若新さんは、生きていく上での正解がひとつではない今、多様な価値観を認め合う関わりが求められていると話し、「おしゃべり」の中でさまざまな視点の意見に触れ、お互いの理解を深める対話から「発見の連鎖」につながっていくことを伝えました。



「安くないおしゃべり」で新しい価値観を評価できるおしゃべりが大切だと若新さん

ワールドカフェとシンポジウムでは、(特非)よこはま地域福祉研究センターの佐塚玲子さんの進行で、参加者同士の意見交換や、居場所活動実践者のシンポジストか



「大人にも居場所を」といった意見も聞こえた

ら現場の声
が伝えられ
ました。
シンポジ
ストには、
ほんそんこ
ども食堂
(茅ヶ崎市)

の早川仁美さん、くすのき広場(相模原市緑区)の吉澤肇さん、沖繩大学名誉教授の加藤彰彦さん、若新さんが登壇。早川さんは「支援する」と構えるのではなく、誰でも来られるような居場所がいいのでは」と活動の姿勢を述べ、吉澤さんは「人と関わろうとする勇氣を持つ」とこれから活動を始めたいと考える人へエールを送りました。加藤さんは「出会うことで相互関係は広がる」と出会いの重要性を説き、子どもと共に大人も学んでいけることがあると語りました。

大人と子ども・若者が出会い、交流し、新たな発見が広がりに成長する居場所。それを可能にする対話の大切さとおもしろさに気付くフォーラムとなりました。

(企画調整・情報提供担当)

誰もが安心して暮らせる地域社会の実現にむけて 第2種・第3種正会員連絡会公開研修会開催

本会第2種・第3種正会員連絡会では、連絡会会員が市町村社協や福祉施設、行政等の関係者、県民等と福祉課題を共に考える場として、年1回、公開研修会を開催しています。

去る2月20日に「生活困窮者自立支援制度での『ひきこもり』支援事例から考える」をテーマに、白梅学園大学教授の長谷川俊雄さんによる課題提起と、ひきこもり支援に取り組む(二社)インクルー

ジョンネットかながわ代表理事の明石紀久男さん、座間市福祉部生活支援課副主幹の林屋一さんによる実践報告が行われました。

長谷川さんは、支援者はひきこもりに対する支援のゴールを、外出や就労という「分かりやすい目標」に置くだけでなく、多面的にひきこもりを捉える必要性を話し、本人にとって吟味された目標を定めて支援することが重要と課題提起がありました。

これを受けて明石さんからは高齢化するひきこもり者と家族



解説する長谷川さん

支援に関する実践報告と共に、ひきこもりを否定せず、関わりを通じて相手とつながることや、支援者同士がSOSを出せる関係性づくりの大切さといった相談支援のポイントが挙げられました。

林さんは、市で取り組む「断らない相談支援」の事例を報告。関係者のネットワーク作りを通じた「支援」だけではなく「応援」をしていくという視点に触れ、生活困窮者自立支援制度を中心とした取り組みが紹介されました。

連絡会では、今回示されたひきこもり支援の視点や課題提起を共有し、各会員・関係機関と共に「誰もが安心して暮らせる地域社会の実現」に向けて今後も取り組んでいきます。

(地域福祉推進担当)



報告を行う林さん(左)と明石さん(右)